
五界戦争

晃

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

五界戦争

【Nコード】

N6473K

【作者名】

晃

【あらすじ】

五つの世界が存在する、

一つの空間。互いの存在を知ったとき、戦争はおこった。守るため、滅ぼすために争いつづける五つの世界。

そして、戦争を終わらせるための組織、レジスタンス。は行動を始める。いつになるのか、存在するのかもわからない戦争の終末を見るために。

五つの世界とレジスタンス

第一話・平和の使者・レジスタンス

その空間には、人界・妖界・魔界・獣界・外界と言う五つの世界、種族が存在していた。

五つの世界は今までに関わり会う事はなかった。互いの存在をしらなかつたからだ。

未知との遭遇をした者達は、大きくわけて結果的に二つの結論を生み出す。

互いを認め、和解しあうか互いを認めず、争うか。

空間の者達は、後者の道のあるいてしまった。

敵を滅ぼすため、己を守るために。

戦争が進むに連れ、界事に認めあう、いわゆる同盟も結成された。

人間、妖怪達の住む人界、妖界は戦争を早期に終わらせるため、同盟。

好戦的な獣人や自然生物が多くが住む獣界は、機械やサイボーグ等のつくられた命を持つ者が住む外界と同盟。同種族以外を認められない魔界は唯一、孤立して戦いに挑んでいた。

後者を選択してしまった者達は、もう退くことは出来ない。全ては、「これから何をするか」でしか決められない。五界は、どのような道を歩くのか。

「わかりました。今ここに、私達、人妖界と、あなた方、レジスタンスの同盟を約束しましょう。」

何人かの人物が集まる会議室で、一人の女性が優しい笑顔と共に、透き通った声で呟いた。

「ありがとうございます。月光殿。」月光。それが妖王を努める彼女の名前だった。

赤色の瞳に美しい長髪を持ち、彼女が鬼の一族であることを証明する二本の角が、頭頂の髪の間から見え隠れしている。

「うむ・・・平和への一歩となるこの同盟に反対する理由などない。我々人界も喜んで同意させてもらおう。」

「ふふ、彩羅様ならそう言われると思っておりました。」

彩羅と呼ばれた老人、

人王彩羅は威厳、威圧感に溢れた目をつむった。肩辺りまである灰色の髪は静かに静止している。

「お二人共、本当にありがとうございます。んじゃあ・・・いや、それでは私達レジスタンスの部隊構成、武力を話させていただきませう。」

つい、同士との会話口調になりかけたレジスタンスの長は一枚の紙を手渡した。

「そんなにお固くならなくても、いつも通りの話方でよろしいで

すよ。」

優しい表情で月光が話した。

「そうだ。我等はもう同じ肩を並べる同士。互いをよくしるためにも、な。少なくとも私はそう思うぞ。同士、輪廻よ。」

「わかった。じゃあこれからは同士として、話させてもらうよ。」

まるで縛っていた糸が解けたかのように、レジスタンス隊長、輪廻は薄い顎髭を蓄えた顔を緊迫から解き、自然な表情へと変えた。

それを見て、輪廻の部下らしき男がフツと笑った。

「何笑ってんだよ相葉。」「いや、あんたのあんなぺこぺこした姿はそうそう見られる物じゃないからな。両王殿にああ言って頂いたから、こらえてた笑いがちよつとな。」

相葉という男は再び、くく、と冷静な顔のまま微笑した。

「言葉を控える、相葉。」輪廻と共に出席していたもう一人の部下が呟いた。

「こんな男でも、信頼できる私達のリーダーだ。そもそもお前はなぜそんなことで笑えるんだ？」

全くフオローになっっていない上、最後は疑問文で注意をする女性は、鼻と口を布で覆い、長髪をポニーテールの用に結んでいる相葉の顔をキツと睨んだ。「何に笑っても自由だろ、渡瀬ワタセ。そのキツイ性格直した方が特だぞ？折角、綺麗な顔に綺麗な黒い長髪をしているのだからな。」

「な、なあああ!？」

「本気にするな馬鹿。」

真っ赤に顔を染めた渡瀬という女性をからかうように相葉は冷静に話した。

「き、貴様はああ・・・！」怒りに目をつむり、グツと拳を作った渡瀬を見ながら「お前らなあ・・・」と輪廻は呆れ果てていた。クスクスと笑う月光の隣で彩羅は渡された紙に書かれた部隊構成を読み終えていた。

「レジスタンスは戦争を早く終わらせる為、出来た組織、数々の一族が力を合わせているようだな。」

「ああ、大きく分けたなら、五界に住む一族は全部な。界境を越えてでも、同じ考えの奴らは自然と集まるみたいだな。中でも、特に戦闘力や能力の高い七人がいる。組織では、そいつらを七精鋭と呼んでるよ。」

「成程。ではこの席に出席している相葉と渡瀬はその中の二強というわけか？」

「いえ、俺達の実力は、大体同じぐらいです。渡瀬は部隊を統率する能力が高いから、俺は輪廻と組織結成時からの付き合いといった理由で七精鋭の中でもリーダー的な存在なんです。」

「それに、今度、その七精鋭が九精鋭に変わります。次にここに、座っているのはその者達かもしれませんし。」

「へえ・・・その方々はどのようなお方なのですか？」

興味を示した月光が、相葉を見つめながら訪ねる。

「う・・・ま、まあ後の五人と一緒にお話しますよ。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6473k/>

五界戦争

2010年10月9日03時53分発行